

河川砂防技術研究開発公募(河川技術分野)平成21年度採択テーマ

事後評価結果

研究テーマ名	研究代表者	評価
ゲリラ豪雨予測手法の開発と豪雨・流出・氾濫を一体とした都市スケールにおける流域災害予測手法の開発(研究期間:H21年~H24年)	京都大学 中北 英一	A
<p><研究概要> 近年多発するゲリラ豪雨に伴う浸水被害や事故の減災を目的として、以下に示すような、XMPレーダーを有効に活用した予測システムの研究・開発を行うとともに、実流域への適用により有用性を確認した。</p> <p>①ゲリラ豪雨の早期探知システム:上空で発生する豪雨のタマゴをより早期に探知するとともに、追跡し、危険度を自動的に判定するシステム</p> <p>②降雨、河川水位、浸水の一体予測システム:河川水位警報や面的な浸水警報等を想定した、XMPレーダ情報を入力とする、降雨-河川水位-浸水の各予測技術とその組合せによる空・陸一体的な予測システム</p>		
<p><事後評価コメント> 河川の現場管理につながる降雨の運動学的予測を活かした警報システムの開発は、技術的に先進性があり、現場で利用できる実用的な成果を得ることができた。河川水理学に与えるインパクトも大きく、研究目的は達成され、十分な研究成果があったと言える。今後は、本研究で得られた手法の適用条件を明らかにした上で現場適用を進めるなど、成果の実用化が進むことが期待される。また、現場への適用を通じて、これらの予測手法の誤差と警報等の的中率についてデータが蓄積され、雨量の予測精度の向上につながることを期待される。</p>		

※評価基準

- A: 研究目的は達成され、十分な研究成果があった
- B: 研究目的は概ね達成され、研究成果があった
- C: 一定の研究成果があった
- D: 研究成果があったとは言い難い